

照院是なり。此の常照院相續いて加州權現堂の別當社務なり。然れ共其の身は江戸に在りて、加州權現堂祭禮の儀は、松植院勤之。松植院遷化の後には、國僧の中より勤仕し、金澤天台宗三ヶ寺勤之。看坊頭犀川寺町安住寺、御宮護摩執行役人卯辰最勝寺、同鎌取横山西照寺、如此相勤むるなりとあり。三州志來因概覽附録にも、其の後は常照院不來、院の代僧來る。其の後又轉じて金澤の天台三ヶ寺勤之。初め常照院來寓の爲に宮坂下に一字を構へ、別當代と稱す。所謂神護寺是なりといへり。又右別當屋敷を神護寺と號するも、既に延寶以前よりの事なりけん。左の執達書あり。

加州石河郡巨明山神護寺者。當所東照宮別當職也。國守奉勸請尊神。崇敬異他矣。因茲實與一代。於國守管領之三箇國中。被聽着木蘭色衣訖。者彌神事勤行不可怠慢之旨。依輪王寺宮一品法親王之仰。執達如件。

延寶四年仲秋廿九日 觀理院 舜 盛

按ずるに、右實與は松植院の事ならんか。さてまた菅家見聞集に云ふ。御靈堂の執行は金澤宮腰口出雲寺、鎌取最勝寺塔頭玄覺、執行安住寺、最勝寺等加る。其の外犀川藥王

寺、卯辰顯聖寺、宮腰道入寺、是を御佛殿の加僧と云ふ。掃除坊主宗壽坊、眞教坊。各、天台宗の坊主にて妻帯也とあり。今按ずるに、右眞教坊は眞性坊の誤也。此の兩人をば中衆と呼べり。貞享二年犀川小島屋町中衆宗壽由來書に、正保元年正月松壽院代中衆に被申付、東照權現御神前香華、燈明、掃除等仕、其の上兩御佛殿毎月御命日に罷出相勤と見え、又才川堅町中衆眞性由來書に、親眞性慶安三年五月松壽院代中衆に被申付云々とありて、卯辰西養寺の奥書に、右東照宮御神前燈明、掃除等仕中衆由來相尋、書付帳面に記上之と載せたり。金澤町會所留記に載せたる正徳元年十一月醫師長谷川學峰の上申書に、元祿十五年之春當地神護寺之中衆堅町眞乘坊方へ掣養子に成、神護寺へ相勤とも見えたり。神護寺の記録に、金澤東照宮之詰番に、山伏之内より人撰して交番なしたるよし記載す。又加越能三州社寺領記に、神護寺之寺領堂形現米二百拾石但閏月拾石増、東照宮。外三拾石、大饑院殿、嚴有院殿、常憲院殿、御佛殿御靈供米。役僧安住寺、最勝寺、出雲寺外加役僧とありて、舊藩中は過分に社寺料をも寄附せられ、鄭重に

祀られしかど、明治維新の初め神佛混淆御廢止に付き、明治

に移して、今は存如の廟所となしたり。

○伴天連居址

二年の春東照宮の佛器・佛具を取除き、別當神護寺の號を廢止せられ、東叡山よりの詰僧をば歸山せしめ、天和三年以來東照宮の役僧を勤め來りし天台宗出雲寺の住職僧復飾して西岡大進と稱し、東照宮の神職と成り、又復飾山伏十名を撰擧して、東照宮の神役となし、元神護寺へ附け置かれし社寺料の内を以て各、現米二拾俵宛賜はるといへども、幾程なく廢藩と成り、神役を廢止し、東照宮は尾崎神社と改稱して、村社に列せられ、神職西岡大進を祠掌に任ぜられしかど、西岡も程なく歿し、其の家絶えたり。元神護寺は明治二年三月より致遠館と號し、英學の塾所となし、其の後致遠館を大手町元普請會所跡へ移轉し、元神護寺は女學校となし、後拂下に成り、眞宗の學問所とする處、明治十四年城内二ノ丸の館物燒亡の後、二丸新五郎坊を取除きけるに、土中より掘り出したる枯骨をば本願寺の別院へ渡されけるに、本願寺七世存如上人の遺骨と稱し、翌十五年元神護寺の建物を取毀ち、徳川家靈堂・佛殿跡の地所を合併して佛宇を造立し、彼の枯骨を埋め、尾山櫻をも此

此の居跡は、甚右衛門坂の下、元神護寺の地邊なりと云ふ。舊傳に云ふ。耶蘇宗徒内藤德庵・宇喜多休閑・品川右兵衛・柴山權兵衛等の諸士の第宅ども、此の地邊にありたりし故に、其の頃耶蘇の伴天連をば招き寄せ、此の地に置きたりとぞ。伴天連は耶蘇宗の和尚にて住職と稱する如しといへり。按ずるに、原本信長記に、天正八年閏三月菅屋九右衛門等三人爲奉行、安土にて伴天連に屋敷を賜ふ由見わたれば、金澤にての伴天連屋敷も天正年中に建てたるならん。堀樗庵の寛永南嶋變附録に云ふ。南蠻寺日々に歸依の者多く、兩伴天連大勢の中より撰り出し徒弟とす。一人は惠俊と云ふ禪僧也。生國加州といへども慥かならず。此の宗門に歸依し、伴天連に隨ひ徒弟と成り、名を波美庵と云ふ。一人は和泉堺の吳服屋安左衛門と云ふ。名を荒洩安と改む。今一人は攝州黒田村の百姓善五郎、名を改めて守紋と云ふ。其の中にも第一の英雄と聞えしは、高山右近將監長房也。此の人は攝州・河州に隠なき勇將にて、荒木七人衆の